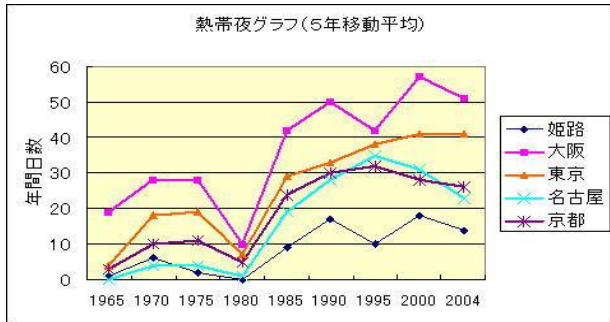


# なぜ、屋上緑化が必要なの？

## 今、まちなかの緑はどんどん失われています

ビルや店舗、道路や駐車場といった経済や生活に便利な人工構造物の建設は、つつい緑化より優先されがちになり、なんらかの歯止めがなければ緑地は失われていく一方です。そして、下のグラフに見られるように、ヒートアイランド現象は年々顕著に現れるようになってきています。

京都は全国の都市の中でも、大阪・東京に次ぎ、名古屋とほぼ同日数で熱帯夜が多くなっています。



こうした状況は、都市の温度が上がることによりさらに冷房使用が増加し、排熱の増加・エネルギー消費の増加によって温室効果ガスの発生に拍車をかけるという悪循環を生んでいます。その結果、「温室効果ガスの増加による温暖化」と「人工排熱の増加による温暖化」という『ふたつの温暖化』現象を引き起こしているのです。

しかしながら、まちなかに緑のエリアを広げていくことは簡単なことではありません。そこで、建物の屋上や壁面の緑化を進め、周辺の緑や水面とのつながりにより、まちなかの温度を下げていくことが必要なのです。

## 屋上緑化の効果とは？



京都府保健環境研究所でのデータ (2003. 9. 9)

夏季においては建物の蓄熱とその放出を抑制し、緑化した面ではコンクリート面より約2~3℃低くなり、ヒートアイランドの抑制を図ることができるとともに、階下の室温を夏季においては2~3℃下げ、冬季においては1~2℃高く保つなど、冷暖房エネルギーの削減によるCO2削減を図ることができます。



### 屋上緑化の主な効果

#### 人間に対する生理的・心理的效果

- ▶ やすらぎ空間の創出 (鎮静効果)
- ▶ 身近な情操教育、環境学習の場の創出

#### 都市環境の改善効果

- ▶ ヒートアイランド現象の緩和
- ▶ 空気の浄化や騒音の低減
- ▶ 都市の自然性の向上
- ▶ 都市のアメニティの向上

#### 建物に対する経済的效果

- ▶ 省エネルギー (夏季の温度上昇の軽減・冬季の保温)
- ▶ 温度変化の緩和による耐久性の向上
- ▶ 酸性雨や紫外線による建物の劣化防止
- ▶ 火災による延焼防止
- ▶ イメージアップや集客力向上